

2.1. 家庭における年中行事の実態とその意義について

—育児雑誌『あんふあん』の記事分析から—

田口 祐子

はじめに

「冠婚葬祭と情報化に関する研究」のプロジェクトにおいて、筆者は雑誌等の紙媒体にあらわれた、子どもの儀礼に関する現在の動向の整理や意義の抽出を試みてきた。今回は、就学前の子どものいる家庭向け雑誌において多くみられた、年中行事の実態に関する記事を収集、整理し、意義の抽出を試みることにする。

現在の年中行事をめぐる実態について、1993年に石井研士が東京の大学生に実施したアンケート調査がある。調査では、大正月（正月）、節分、社日、端午の節句、七夕、お盆、新嘗祭、クリスマスなど36行事について、行事ごとの実施の有無や程度について聞いている。その結果、①民俗学が年中行事として分析の中心に置くような行事（事八日、八朔など）の大半は生活から脱落している、②正月、節分など生き残っている行事はその様相が変化している、③戦後海外から輸入された新しい行事（クリスマス、バレンタインデーなど）が盛んである、という3つのことが明らかになったとした¹。調査結果から日本人がもっていた循環する自然観と調和する世界観を、現在の年中行事から見出すことはむずかしく、人々は個人化が進む社会において、消費と情報の間で翻弄されながら新たに年中行事の意義を見つけ出さなければならなくなっているとしている（石井 1994：30-32）。

同様に年中行事に関するアンケートを実施した調査の中で新しいものとして、2016年の村上陽子らによる調査がある。この調査でも大学生（中部・近畿）を対象として、人生儀礼と年中行事における認知度とその実施の有無や頻度について聞いている²。このうち年中行事については、「初詣」「人日の節句」「節分」「上巳の節句」「端午の節句」「七夕の節句」「重陽の節句」「中秋の名月」の8行事を選択肢とし、「聞いたことがある」かどうかで認知度を、「経験したことがある」かどうかで経験率を聞いている。結果として、人日の節句（七草）と重陽の節句が認知度・経験率ともに低いのに対し、それ以外の行事の認知度については低いものでも70%以上とかなり高い割合となっており、経験率も端午の節句と中秋の名月以外は全体で80%以上となっている。認知度・経験率が高かった行事については、正月はおせち料理や雑煮、節分は豆、七夕は素麺というように行事食とつながりやすく、そういった点が割合の高さに関係しているのではないかと考察している（村上ら 2023）。

両研究から、1993年以降の年中行事の認知度や実施の有無について知ることができるが、では実際実施されている年中行事は、こういった場所でだれと共に実施され経験されてき

¹ 調査人数 563 人。何回かの追跡調査を実施したところ同じ傾向がみられたという（石井 2020）。

² 調査人数 313 名。いくつかの人生儀礼についても同様に調査、「七五三」以外全体で認知度・経験率共に 20% 以下のものが多数みられる結果となった。

たものだろうか。

リビングくらし HOW 研究所により全国の幼児のいる子育て家庭を対象として 2016 年から 3 年継続実施された調査で、「行事のとき、あなたが家庭で、またはお友達と何かしているものを選んでください」とする質問に対して、いずれの年もクリスマスは一番多く 90% 以上、正月が 85% 以上、節分、バレンタイン、年越しがそれに続き、「毎月のように訪れる行事を、半数以上の家庭がほぼ毎月楽しんでいる」と結果をまとめている³。

また、2018 年の博報堂のこそだて家族研究所による「いまどきママの新常識調査 第 2 弾」では、20～40 代の小学生までの子どもがいる母親を対象とした儀礼や行事に関する調査を実施している。その中の年中行事を含む 17 行事について実施率を聞いた設問で、小学校低学年ママ、未就学児ママという順で子どものいる家庭での実施率が高いという結果を得ている⁴。

最近行われた両調査データから、年中行事が家庭で多く行われていることがみえてくるが、その家庭で年中行事はどのような形で、またどのような思いを込めて行われてきているのだろうか。

本稿では、先行研究が示す年中行事をめぐる実態をふまえ、子どものいる家庭を対象とした雑誌『あんふあん』の記事を通じて、その実施の実態や意味づけについて知るための情報収集をしていきたいと考えている。

1. 『あんふあん』という雑誌について

本稿では、現在広く読まれている子育て情報誌『あんふあん』を用いた調査を行う。『あんふあん』（こどもりびんぐ社、2020 年 6 月号までサンケイリビング新聞社から発行）は、幼稚園に子どもを通わせている家庭を対象とした月刊の子育て情報誌である。主に幼稚園を通じて、通園している家庭に無料配布されているフリーマガジンである。

2001 年にまず大阪地域で、2002 年には東京地域でも発行され、その後比較的はやいスピードで全国展開するようになる。現在首都圏、関西、東海、北海道、東北、九州の私立幼稚園を中心に、全国で 734,239 部（『あんふあん』2024 年 4 月号より）が配布されている。こどもりびんぐ社のホームページでは、日本 ABC 協会発行社レポート（2022 年 7 月～12 月）⁵の報告を元に、「日本で一番読まれている子育て情報誌」として『あんふあん』を紹介している。

「ママたちの実体験やクチコミを元にした、ママたち自身が主役の「共感メディア」です。子育てはもちろん、行事の過ごし方、パパと共に築く家庭のありようなど、生活を豊かにす

³ 2016 年から 3 年実施の Web アンケート。全国の『あんふあん』『ぎゅって』読者。あんふあん Web ユーザーを対象として、2016 年は 557 名、2017 年は 1,187 名、2018 年は 418 名が回答（サンケイリビング新聞社 2016－2018）

⁴ 回答者 1,237 名、Web アンケート。回答者を「乳幼児ママ」「未就学児ママ」「小学校低ママ」「小学校高ママ」の 4 グループに分けてみた結果。

⁵ 新聞・雑誌・フリーペーパー等に関する発行部数を発行社の報告に基づいて公表している。

る工夫を大切にする高感度な幼稚園ママがターゲット。」(こどもりびんぐ社ホームページから)とするコンセプトからもわかるように、読者である現役の母親たちの意見や要望をすくい上げ、子育てする家族の共感を重視する誌面構成となっている。その方法として、アンケート・インタビューへの回答、誌面読者モデルや座談会また Web での情報発信活動への協力などがある。

コンセプトにあるように、『あんふあん』では年中行事を含む行事を多く記事に取り上げている。本稿では、この雑誌における年中行事に関する記事を収集し、記事に記された行事の実施方法や内容を確認するほか、集めた記事を通して現代の子育てにおける年中行事の位置づけや意義を知るヒントを得たいと考えている。

『あんふあん』を創刊したサンケイリビング新聞社は、1976 年にスタートした主に女性向けのフリーペーパー、フリーマガジンを全国的に発行している新聞社である。試行錯誤しながら日本にそれまでなかったというフリーペーパーを制作し、その前身が 1971 年に発行した記念すべき第 1 号『フジサンケイ・リビングニュース』中央沿線版は、三鷹、武蔵野、府中、小金井、国分寺、国立、立川、日野、八王子で配達を試みたという。

フリーペーパーという未知の挑戦の中、支えとなったのが SDM 組織(サンケイ・ダイレクト・マーケティング事務局の略)の存在であったという。SDM 組織は、フリーペーパー発行に先立って、1970 年代、当時それまで労働力の対象としてあまり考えられていなかった地域の家庭の主婦を集めて、地区ごとにグループ化し、そのグループごとに決めた地域に悉皆で配布するしくみであった。当時家庭の主婦層に「家庭の外に仕事を」といった社会風潮がみられ、サンケイリビング黎明期について書かれた『白い紙への挑戦』(サンケイリビング新聞社 1982)では、SDM 組織に参加した女性たちの 99%が「新聞配布を通じて社会参加ができる」と活動を高く評価している。このように支え手の多くが家庭の主婦であったほか、当初の編集綱領の 2 本目の柱として「主婦を第一読者とする」とあり、読み手としても女性向けの誌面づくりをしてきたといえる。初期の記事の中で特に人気だったのは、専門家による主婦向け記事「家計診断」「あなたの家計診断します」であり、それに続く人気のあった記事は教育面の「母と子の対話・幼児シリーズ」で、子育てに悩む幼児期の子をもつ母親たちの実体験に対して専門家がアドバイスする内容のものであった。

その後、サンケイリビング新聞社では子育て世代を対象とした新たな情報誌の需要を感じ、2001 年に『あんふあん』が発行された。幼稚園を通じて家庭に配布してもらう形式は当初からで、1 軒 1 軒幼稚園をまわって説明し、扱ってくれる園を増やしていくという地道な努力の中始まったという。北垣によれば、この雑誌が軌道にのったのも早く、そのニーズの見極めにまちがいはなかったといえる(北垣 2014: 31)。『あんふあん』は創刊時から今に至るまで、就学前の子育て家庭のニーズを把握し、その誌面に反映させてきたといえよう。

2. 『あんふあん』の記事にみられる年中行事の内容

本章では、『あんふあん』誌面の構成と年中行事に関する記事について整理した結果を紹

介する。

記事の収集方法としては、『あんふあん』の2010年9・10月から2024年1月までのもの⁶を用いて、その期間に発行されている号の全頁を確認して、年中行事に関する記事、記述、イラスト、写真があったものを収集した。併せて目次をみて、見落としがないかの再確認を行った。

まず『あんふあん』という雑誌の全体の構成をみていくこととする。『あんふあん』はフリーマガジンであることから、誌面の中の広告部分の重視は当然であるものの、広告関連以外の子育てに関連した記事が多いといえる。

主な構成は、まず巻頭などに『あんふあん』制作の育児に関する特集記事、クイズや工作、読み物など「親子で楽しむページ」⁷、企業の依頼を受け『あんふあん』が制作した企業とのタイアップ広告、料理・幼稚園情報・親子向け近場スポット紹介などの連載記事、読者の投稿文や写真などで構成された読者ページ、そして企業制作の自社広告となっている。

この雑誌の特徴を知ることができる巻頭特集の最近のタイトルとして、例えば「子どものタイプ別「失敗」との向き合い方」(2023年2月)、「不思議」「面白い」が栄養源 知的好奇心の育て方」(2023年4月)、「ルーツを知れば世界が広がる 親子で楽しむ行事のいろは」(2024年1月)などがある。第1章でも述べたように『あんふあん』は子育て中の親たちの思いや要望を重視し、子育てに関する情報を提供する誌面構成となっている。例えば、先述の巻頭特集のタイトルからもわかるように、子育て中の親たちが興味をもっている、知りたいと思っていることを取り上げる内容となっている。その中に行事つまり年中行事に関するものが取り上げられていることは、現在の子育て中の母親たちにとって、年中行事が関心を持たれている話題であることを示しているといえよう。

巻頭に限らず、様々なタイプの記事で年中行事は取り扱われている。取り上げられる行事として、例年1月号では正月、2月号は節分やバレンタイン、3月号はひなまつり、4月号はお花見やイースター、5月号はこどもの日や母の日、6月号は父の日、7月号は七夕、8月号は夏祭りやお盆、9・10月また11月号ではハロウィーンや七五三、12月号はクリスマスや大みそかなどがみられる。その月の年中行事を中心にすえた記事のほか、記事の内容にその月の年中行事の要素を含ませて、コンセプトにもあった「生活を豊かにする工夫」のひとつとして、例えば彩りを添える形で取り上げることもみられる。

さまざまなタイプの記事の中で、特に年中行事に関する扱いが多いのは、「親子で楽しむページ」と連載記事である。この2種類の記事を通じて、『あんふあん』の中で年中行事が

⁶ 国立国会図書館で所蔵されている期間のものを使用した(ただし2012年と2013年の1月号は所蔵なく未確認)。使用したのは基本的に東京版であるが、ない号については関西版を使用した。両版を見比べた際に地域情報以外は同様の記事を用いていたことによる。なお、『あんふあん』は月刊であるが9月と10月は毎年合併号になっており、年11回発行となっている。

⁷ 『あんふあん』の目次にみられる分類名を使用。

図表1 「クイズ・パズル」にみられる年中行事一覧

年	月	行事名	タイトル
2010	12	クリスマス	ムッビとめいろ
2011	1	正月	ムッビとふくわらい
	4	花見	ムッビとしりとり
	7	父の日	ムッビとくいず
	12	クリスマス	ムッビとさがそ
2012	2	節分	ムッビとめいろ
	12	クリスマス	みんなのほしいもの
2013	1	正月	えとってしってる？
	2	節分	おにのこたけつ
	7	七夕	たなばたかざり
	8	夏祭り	わくわくなつまつり
	9・10	ハロウィーン	ハッピーハロウィーン
	12	クリスマス	クリスマスはっぴょうかい
2014	2	節分	せつふんとおにごっこ
	3	ひな祭り	ひなまつりでなかなおり
	9・10	月見	おだんごころりん
	12	クリスマス	クリスマスケーキをつくろう！
2015	9・10	ハロウィーン	かぞえてハロウィン
	12	クリスマス	みつけてクリスマス
2016	1	正月	えとすぐろく
	2	バレンタイン	ドキドキなぞなぞバレンタイン
	12	クリスマス	わくわくプレゼント
2017	1	正月	おしょうがつクロスワード
	2	節分	まめまきですうじつなぎ
	8	夏祭り	どこにいるのかな？
	9・10	ハロウィーン	おばけめいろ
	12	クリスマス	かくれたまじをさがせ！
2018	1	正月	おとしだまをあてよう！
	2	節分	まちがいさをさがせ！
	3	ひな祭り	ひなまつりのえあわせ
	9・10	ハロウィーン	てんをつなごう！
	12	クリスマス	クリスマスのえさがし
2019	1	正月	すぐろくでおしょうがつ
	2	バレンタイン	バレンタインのえあわせ
	3	ひな祭り	まちがいさをさがそう！
	9・10	ハロウィーン	かげえクイズ
	12	クリスマス	ぬりえパズル
2020	1	正月	おしょうがつクイズ
	3	ひな祭り	ひなまつりのえあわせかいあわせ
	9・10	ハロウィーン	まちがいさをさがそう！
	12	クリスマス	すうじをさがそう！
2021	2	節分	ひらがなぬりえ
	12	クリスマス	クリスマスプレゼントはなあに？
2022	1	正月	おしょうがつこのれなあに？
	2	バレンタイン	バレンタインえあわせ

* すべての図において10月～2月にかけての行事名欄に色をつけた。

図表2 「工作」にみられる年中行事一覧

年	月	行事名	タイトル
2010	9・10	月見	おつきみゆらゆらずもう
2011	1	正月	ひよこひよこしまい
	2	節分	とびだせ！あかおに
	12	クリスマス	きらきらツリー
2012	2	節分	ばくばくおにさん
	9・10	ハロウィーン	切り紙で作るハロウィーン飾り
	12	クリスマス	なかよしクリスマス
2014	2	節分	まめまきぞうくん
	3	ひな祭り	へんしんおひなさま
2015	1	正月	えとどうぶつえん
	5	こどもの日	わなげこいのぼり
2016	11	ハロウィーン	ハロウィーンモンスターマスク
2017	1	正月	ドキドキおみくじ
	2	節分	おにノックゲーム
	4	イースター	イースターエッグつみあげゲーム
	11	ハロウィーン	ぶらぶらハロウィーンにんぎょう
2018	1	正月	バクバクしまいくん
	2	節分	おにたおしゲーム
	11	ハロウィーン	ハロウィンスパイダー
2019	11	ハロウィーン	ジャック・オ・ランタン
2020	5	こどもの日	へんしんかぶとくん
	11	ハロウィーン	ハロウィーンおめん
2021	1	クリスマス	ゆらゆらクリスマスツリーわなげ
	2	節分	おにあわせゲーム
	11	ハロウィーン	ハロウィーンがいこつダンサー
2022	11	ハロウィーン	かぼちゃのランタンこものいれ
2023	2	節分	まめまきゲームおにはそと！サッカー
	3	ひな祭り	バタバタめくって！きせかええほん
	11	ハロウィーン	つんでゆらゆら！ハロウィーンタワーゲーム
2024	1	正月	おもちぶつくり！おもちびたんこゲーム

* すべての図において10月～2月にかけての行事名欄に色をつけた。

図表3 「読み物」にみられる年中行事一覧

年	月	行事名	タイトル
2017	12	クリスマス	しっぱいしてもいいんだよ
2018	12	クリスマス	クリスマスツリーのかざりつけ
2019	12	クリスマス	クリスマスのプレゼント
2020	9・10	ハロウィーン	ドキドキハロウィンパーティー
	12	大みそか	クリスマスイブのよるに
2021	1	正月	ねんがじょうかいた？
	12	クリスマス	ポンチむらのクリスマス
2022	2	節分	ボンちゃんとリングおに
	11	ハロウィーン	ボンちゃんとオバケのおやしき
	12	クリスマス	きえたくつしただいじけん
2023	12	クリスマス	サンタさんからのプレゼント

どのように扱われ、そこから読みとれることを検討していくこととする。

① 「親子で楽しむページ」の中の年中行事

親子で楽しむページは、子ども向けのクイズ・パズルや工作、読み物を扱うページ群のことを指す。これらのページは収集を始めた号から毎号に掲載されている人気のページといえる。この中で、年中行事を取り扱った内容のものをみていくこととする。

まず、最も頻繁に年中行事について記事の中で取り扱っているのは、クイズ・パズルである。今回収集できた中で最初の記事は 2010 年 12 月号のものであり、ムッピーという雑誌の当時のキャラクターを使ったクリスマスの絵柄の迷路で、見開き 2 ページの構成となっている。迷路には要所所でクリスマスに関係のある言葉がひらがなで書かれており、正しく書かれているものを選んで進むとゴールに到達できるようになっている。

2017 年 5 月号からメインキャラクターがプッチオンというライオンの子どもになるが、このページの魅力はあいかわらずで、クリスマスやハロウィーンのほか、正月や節分、ひな祭りなど楽しみながら年中行事に対する興味や知識を増やす内容となっている。2020 年 9・10 月号では、それまで見開きだったのが片側 1 頁になって規模が縮小し、その後も 1 頁で続いている。全体をとおしてクイズ・パズルに関しては、年に平均して 3～4 回年中行事をモチーフにしたものが掲載されている。クリスマスが毎年必ず取り上げられ、ハロウィーンと正月、節分も多い印象である（図表 1）。

次に多いのは工作である。収集できた内で最初の 2010 年 9・10 月の記事では、他よりも少し硬い素材の紙でできたページに書かれたカラフルなイラストをハサミで切り、折ったり貼ったりすると、お月見の 2 匹のうさぎに相撲を取らせることができるようになっている。これ以降、正月、節分、ひな祭り、こどもの日、ハロウィーンやクリスマスなどの工作もあり、様々なタイプの年中行事が題材となっている。中でもハロウィーンはほぼ毎年あり、節分も目立つ（図表 2）。

最後に読み物だが、今回収集した期間の後半で年中行事に関する話がでてくるようになる。読み物は毎号掲載されているものだが、はじめ「かさじぞう」「てんぐのかくれみの」といったような昔話や海外の童話などが掲載されていた。途中から雑誌のメインキャラクターとその仲間たちに関する話になる中で、2017 年 12 月からクリスマス、ハロウィーン、正月、節分、大晦日をテーマとした話が出てくる。その中で特にクリスマスが多い印象である（図表 3）。

図表 1～3 は、クイズ・パズル、工作、読み物の中で年中行事に関係した記事を一覧としたものである。いずれにおいても多くみられる行事は正月、節分、ハロウィーン、クリスマスといえる。この親子で楽しむページは、年中行事だけを題材にするものではなく、広く動物や食べ物、幼稚園生活などに関することが題材となっている。そうした中で、年中行事が記事に選ばれるということは、子育てする家庭における年中行事への関心が高いと制作側が把握しているからだろう。取り扱われることの多い年中行事から、現在の家庭では 10 月

のハロウィーンから 2 月の節分にかけての時期の行事への意識、関心が高い様子がみとれる。

なお、『あんふあん』では 2008 年から Web サイト『あんふあん Web』を開設しているが、これら親子で楽しむページのクイズ・パズルや読み物などについては、ページについている QR コードから Web サイトにつながるようになっており、関連した記事がスマホの画面をとおしても楽しめるようになっている。

②連載記事の中の年中行事

連載は、特集がその号限りのものであるのに対して、何かしらのテーマをもって数号にわたって継続している記事群のことである。この中で年中行事をテーマとした、あるいは年中行事関連の連載がいくつかみられる。こういった連載の中で特に多いのは、料理と読者参加型の記事である。

まず料理に関する連載だが、「行事のお料理」（2013 年 5 月～2014 年 2 月）、「オヤコでつくろ！行事おやつ」（2014 年 7 月～2015 年 3 月）、「今夜のわごはん」（2015 年 5 月～2016 年 4 月）、「今日は何の日？行事ごはん」（2017 年 2 月～2018 年 6 月）、「ワンプレートでっこりごはん」（2021 年 7 月～2023 年 3 月）が、例外もあるが大体それぞれ 1 年単位で次の連載に引き継がれるような形で掲載されている（図表 4）。

「オヤコでつくろ！行事おやつ」までは親子で一緒につくることを考えた企画であり、それ以降は基本的に小さい子どものいる家庭で喜んでもらえる、行事に合わせて親が作る料理のレシピとなっている。

ほとんどが「伝統的」というよりもアレンジしたものとなっているが、その多くには年中行事の由来等に関する説明が付されている。例えば、「オヤコでつくろ！行事おやつ」の 2014 年 8 月記事では、お盆にフルーツポンチのレシピを載せており、「ご先祖さまの魂を迎えて、供養する「お盆」。今では本格的にご先祖さまをおもてなしする家庭は少ないですが、浄土へのお土産として用意するものとされていた「白玉」は子どもたちと作って食べるのにぴったりです。」と説明されている。

次に読者参加型であるが、『あんふあん』全体を通じて、年中行事に関して力を入れて取り組まれているのはこのタイプの記事であろう。

特に目立つのは 2013 年 5 月から（2016 年 4 月まで）始まった「WE LOVE 行事ママ」である。この連載は、お菓子作りや写真、工作など得意なことを持ち、年中行事への関心の高い読者ママたちが誌面作りに参加し、交代でその月の年中行事について、家庭で楽しめる取り組みを紹介するものである。初回の 5 月号ではタイトル近くに大きく「メンバー結成！これからの 1 年間行事の楽しみ方を紹介します」とし、記事冒頭には「日本伝統の行事や、外国から入ってきた行事など四季折々たくさんの行事があります。「あんふあん」では子どもたちに行事の意味や楽しさを伝えるために「あなたも行事ママ」を結成！これから 1 年間、いろいろな行事を取り上げていきます。」としている。

図表4 「料理」にみられる年中行事一覧

年	月	連載名	行事名	料理名
2012	9・10	ヒナとコウタのお りょうりだいすき！ *注	ハロウィーン	ハロウィーンミートパイ
2013	5	行事のお料理	こどもの日	こいのぼり風フルーツサンド
	7		七夕	星いっぱい七夕そうめん
	9・10		月見	月見マフィンバーガー
2014	2	オヤコでつくろ！ 行事おやつ	バレンタイン	みかんカップのチョコレートパフェ
	7		七夕	豆乳のパンナコッタ
	8		お盆	フルーツポンチ
	9・10		ハロウィーン	かぼちゃのソフトクッキー
	11		七五三	切り株ケーキ
2015	2		バレンタイン	ココアブラウニー
	3		ひな祭り	いちご桜餅
2016	1	今夜のわごはん	正月	お正月風ブリの照り焼き定食
2017	2	今日は何の日？ 行事ごはん	節分	恵方巻
	6		父の日	花束サラダ パパカレー
	7		七夕	天の川そうめん 七夕コロッツ
	8		夏祭り	キウリパー 屋台風オムそば
	9・10		ハロウィーン	白菜たっぷりチャウダー かぼちゃのミートパイ
	11		七五三	手まりずし 彩り茶碗蒸し
	12		クリスマス	骨付きクリスマスチキン リースサラダ
2018	1		正月	野菜たっぷり煮しめ
	2		バレンタイン	ハートの玉子焼き載せハンバーグ エビとアボカ ドのサラダ
	3		ひな祭り	菜の花とニンジンの春野菜チキンロール
	4		イースター	スコッチエッグ チーズ塩豆腐
2021	7	ワンプレートで にっこりごはん	七夕	七夕アジフライプレート
	11		ハロウィーン	ハロウィーンプレート
	12		クリスマス	クリスマスビーフシチュープレート
2022	2		バレンタイン	バレンタインプレート
	11		ハロウィーン	ハロウィンプレート
	12		クリスマス	クリスマスプレート

*注 断続的な掲載で始まりがわからないものの、連載と思われることから掲載。

・図で10月から2月にかけての行事名欄に色をつけた。

このような形で始まった連載では、毎回1～5名の母親たちが自分の家庭での行事の祝い方、親子で楽しんでいる様子について、写真と文章で紹介している。初回の5月号では例えば、市販のロールケーキを使ってこいのぼりの形にデコレートしたり、子どもと紙で作ったこいのぼりを家の壁に貼って飾ったりなどの楽しみ方が紹介されている。

それぞれの母親の記事は短いものの、その中から読み取れる参加メンバーや実施内容について図表5にまとめた。

続くような形で、2016年5月から（2017年4月まで）は「手作り行事ママ」の連載が始まる（図表6）。読者会員の協力者が毎月1人、その月に関連のある行事に関係した料理や手作り・工作などを紹介する記事となっている。これまでと異なるのは、記事でその工程を多数の写真で詳しく説明していることである。紹介者が1人だけであることからページ全体を使って、やり方を順を追って説明している。「WE LOVE 行事ママ」と比べると、子どもと、というよりも親が作って子どもを喜ばせるといった印象で、手の込んだものがみられ、子どもと一緒に取り組める部分は少ないようにみえる。

2017年5月からは、「あんふぁんメイトのあなたも行事ママ」という記事が2020年2月まで続いた（図表7）。これははじめの「WE LOVE 行事ママ」に比べると情報量が少ないものの、似た構成の連載であり、母親たちが自分の家庭での行事の祝い方、親子で楽しんでいる様子について、写真と共に紹介している。

これまでになかった新しい試みとしては、時間や労力を「ママのひと手間 LEVEL」として、簡単にできるものからしっかり取り組む必要のあるものまで、かかる手間のレベルが一目でわかる工夫もみられる。例えば、2017年12月号ではクリスマスに市販のお菓子をプラスして手作りヘクセンハウスを作るのは最高レベルの星3つ、自分で切った切り絵を貼って作るクリスマスカードは星1つというような形である。またQRコードがついており、さらに詳しいことを知りたい読者をWebサイトの方に促すようになっている。

以上、連載記事の中で紹介された年中行事の実施内容について図表5～7を見直すと、行事に参加するメンバーについては、友人や祖父母とともに祝う様子もみられるが、基本的に親子だけということ、実施内容としては料理に関するものと手作り・工作に関するものが多いことがわかる。さらに料理の場合、「伝統的」なものよりもアイデアを凝らした料理がほとんどを占める。記事の多くはあまりお金をかけないようにすること、見た目で子どもが楽しくなるような仕上がりながら親がやりすぎないようにすること、子どもが無理なく参加できるように工夫された形をとっていることが特徴といえる。

これらの年中行事に関する記事から読み取れることは何であろうか。記事に登場する母親たちはこの企画に任意で応募した人たちであり、年中行事に対する意識が高いことはまちがいない。また読者を意識したり雑誌側の意向を汲んだ部分もあるかもしれない。

しかし、内容をみていくと、一部の人向けのハイレベルでハイセンスなものというよりも、現在の子育て家庭の事情を実体験から把握した上で、子どもたちに、また読者の母親たちに関心をもってもらうことに重点をおき、それぞれの体験を元にして考え出した年中行事の

図表5 「WE LOVE行事ママ」(2013年5月～2016年4月)記事分析一覧

年	月	年中行事	投稿数	親子	友人	祖父母	親戚	伝統料理	アイデア料理	キャラ弁	手作り・工作	衣裳	室礼	お出かけ	プロ写真	歌う	絵本
2013	5	こどもの日	5	○				○	○	○	○						
	6	父の日	3	○					○	○			○				
	7	七夕	3	○		○		○	○			○		○			
	8	夏祭り	4	○	○	○						○		○			
	9・10	ハロウィン	4	○	○						○	○		○			
	11	七五三	4	○		○	○		○					○	○		
2014	12	クリスマス	3	○					○		○		○	○		○	○
	2	節分	4	○					○		○		○	○			○
	3	ひな祭り	4	○					○		○	○	○				
	4	花見	4	○	○								○	○	○		
	5	こどもの日	1	○		○			○		○						
	6	父の日	1	○					○		○						
	7	七夕	1	○					○		○	○	○				
	8	お盆	1	○		○		○			○		○	○			
	9・10	ハロウィン	1	○	○						○	○	○				
	11	七五三	1	○		○			○			○		○	○		
	12	クリスマス	1	○	○				○		○	○	○				
2015	2	バレンタイン	1	○		○			○		○						
	3	ひな祭り	1	○		○			○		○	○	○				
	4	イースター	1	○	○				○		○		○				
	5	こどもの日	3	○					○		○	○					
	6	父の日	3	○					○		○						
	7	七夕	3	○					○		○	○					
	9・10	ハロウィン	3	○	○				○		○	○					
	11・12	クリスマス	3	○	○			○	○		○		○				
2016	1	正月	3	○		○		○	○		○			○			
	2	バレンタイン	3	○					○		○						
	3	ひな祭り	3	○					○		○			○			
	4	イースター	3	○		○			○		○						

図表6 「手作り行事ママ」(2016年7月～2017年4月)記事分析一覧

年	月	年中行事	投稿数	親子	友人	祖父母	親戚	伝統料理	アイデア料理	キャラ弁	手作り・工作	衣裳	室礼	お出かけ	プロ写真	歌う	絵本
2016	7	七夕	1						○								
	9・10	ハロウィン	1						○								
	11	七五三	1								○						
2017	1	クリスマス	6						○		○	○					
	2	バレンタイン	1								○						
	3	ひな祭り	1								○						
	4	イースター	1								○						

図表7 「あなたも行事ママ」(2017年5月～2020年2月)記事分析一覧

年	月	年中行事	投稿数	親子	友人	祖父母	親戚	伝統料理	アイデア料理	キャラ弁	手作り・工作	衣裳	室礼	お出かけ	プロ写真	歌う	絵本
2017	5	こどもの日	3	○					○		○		○				
	7	七夕	3	○					○		○						
	8	夏祭り	3	○					○		○	○		○			
	11	七五三	3	○					○		○						
	12	クリスマス	3	○				○			○						
2018	3	ひな祭り	3	○					○		○						
	5	こどもの日	2	○					○		○						
	6	父の日	2	○							○						
	9・10	ハロウィン	2	○					○		○						
2019	1	正月	2	○					○		○						
	5	こどもの日	2	○					○		○						
	7	七夕	2	○					○		○						
2020	2	バレンタイン	2	○					○		○						

*いずれの図表も「親子」から「親戚」は記事から読み取れた参加メンバー、「伝統料理」から「絵本」は記事から読み取れた活動内容を示す。

示し方である印象を受ける。いくら素敵にみえても実行ができないものであれば仕方がないし、従来から言われているやり方を踏襲するだけでは実行する気持ちにならないかもしれない。つまり、現在の多くの親子に年中行事を行ってもらうための、納得できる形のノウハウが示されているといえよう。そう考えるならば、表で示されていることは、多くの人に共感をもたれる現在の家庭での年中行事のあり様なのではないだろうか。

このほか、これら年中行事を中心とした読者参加型の連載に共通する特徴としては、その月に取り上げた年中行事名の近くに、数行程度の行事説明が付されていることがある。例えば、ひな祭りについては「3月3日の桃の節句に女兒の成長を祝う行事、けがれや災いを、人形（ひとがた）に移してはらう風習が元になっている。」とある。先述の料理記事でもみられたものと同様の短いものである。記事ではアイデア料理や工作などで新しさや自分たちらしさを取り入れた工夫が多くみられるが、簡単でも行事の由来について説明をつけることで、ただのイベントとは異なることを確認することの必要性を示しているように感じられる。

こういった年中行事に関する読者参加型の連載は 2020 年 4 月でなくなってしまうが、Web サイトの方にそのまま「形をかえ」引き継がれている。「形をかえ」というのは、雑誌の記事のようにまとまって、「年中行事」というくくりではないものの、検索すれば、興味のある行事に関する読者会員の活動情報等のブログにつながるようになっている。

③その他

①②以外に年中行事に関する扱いが多いのは、企業のタイアップ広告や企業の自社広告、それから「フォト広場」であろう。

タイアップ広告は、企業等の依頼を受け、『あんふあん』側が制作するもので、その多くで記事には読者親子が登場し、宣伝する商品を実際に使ってみる様子などが写真と共に紹介されている。記事の形式が様々であり、ポイントをしばっての分析が難しいことから、企業の自社広告と合わせて今回は分析対象としなかった。

フォト広場は収集を始めた 2010 年からすでにあった、毎月誌面に掲載されているページである。内容は「写真コンテスト」として、テーマを設けて写真の投稿を募り、募集期間中に集まった写真の中から 1 枚を大賞に選ぶというものである。テーマは 2010 年から例年同じものが多く、例えば「表紙モデル」「ランドセル試したよ!」「子どもの変顔フォト」などがある。特に多いのは時期になると募集する年中行事に関するもので、例えば「お正月」「ひな祭り」「こどもの日」「クリスマス」などがある。

投稿された多数の写真は、新しいものは Web 公開もされている。年中行事に関する写真の募集が多いものの、誌面では各コンテストの大賞 1 枚のみの掲載で、審査基準が明示されておらず分析が難しいことから、ここで他と並べて分析対象としないが、次章で参考資料として取り上げる。

3. 『赤ちゃんとママ』との内容比較の試み

筆者は昨年 1966 年創刊の育児雑誌『赤ちゃんとママ』の記事分析を行った(田口 2023)。この雑誌は、タイトルからもわかるように幼稚園などに通園前の子どもがいる家庭が主要な対象となっている。そのことにより、乳児期の子どもの人生儀礼、例えばお宮参り、お食い初め、初節句などが多く取り上げられ、乳児期の人生儀礼に関する記事がほとんどみられない『あんふあん』とは大きく異なる。

『赤ちゃんとママ』で人生儀礼に関する記事の収集を試みたところ、最近になるほど儀礼を実施した際の読者の写真が多くなっているといった特徴がみられた。

それに対して『あんふあん』での読者の年中行事に関する写真については、その多くが第 2 章③にあるように、コンテストという形で募集されたものとなっている。多くの投稿があるものの、誌面では大賞に選ばれた 1 枚のみの写真であり、両誌での写真掲載条件が大きく異なることから、雑誌間での比較をすることは難しい。しかし、そのようなことを頭におきながら、ここでは両誌の写真について参考までに比較を試みたいと思う。

『あんふあん』で年中行事をテーマとして掲載された様々な号のコンテストの大賞写真を見ると、子ども一人だけの写真が多く、その行事であることがわかる要素を写真の中に含むことがみられることがあるものの(例えば七夕なら笹、クリスマスならツリーなど)、タイトルがなければ何の時の写真なのかわかりにくい写真もある。それに対して、『赤ちゃんとママ』の人生儀礼に関する写真の場合、家族で写っていることが多く、それが何に関する写真なのかわからないということはまずない。つまり、投稿しようとする子どもの人生儀礼の写真は、他人でもそれが何の祝いの時のものかわかるようになっており、それは裏を返せば投稿者が他人にでもわかってもらえると感じる写真を投稿しているということであろう。つまり、投稿される子どもの人生儀礼の写真には、その儀礼を示す何かしらの型あるいは枠というものがみられるということである。

現在育児の在り方は一見多様で自由であるように見える。しかし、実際それぞれの家庭で自由な形で子育てをしているかといえばそうではない。親たちは、自分たちの育児が正しいのかあるいはまちがっていないか不安を感じながら、「育児のあるべき姿」を模索しているのが実態ではないだろうか。筆者は『赤ちゃんとママ』に投稿される多くの人生儀礼の写真の分析から、「子どもの成長の節目を祝うことは、ぼんやりとした指針しか示されない現在のあるべき育児をする上でわかりやすい指標」(田口 2023: 134)とした。つまり、絶えず不安を感じる子育てにおいて、子どもの人生儀礼を祝うということは、親として、また家族としての位置づけを保証してくれる、安心感を与えてくれるものの 1 つとなっていると考えることができる。

それに比べると、『あんふあん』で投稿された年中行事の写真には、まず型や枠があるといった感じがうすい。このことの背景には、家庭における人生儀礼と年中行事に関する位置づけや意義の違いが潜んでいるのではないだろうか。

例えば、筆者がこれまで続けてきた七五三をはじめとした母親たちへの子どもの人生儀

礼に関するインタビューでは、「きちんと」「ちゃんと」という言葉にみられる自分たちが実施した（する）儀礼に「正しさ」を求めている様子を感じるが多かった。それに比べると、『あんふあん』でみられる年中行事の記事では、親子のやりとりを中心にしていながらも、その中に「あるべき育児の姿」はもちろん、「きちんと」「ちゃんと」することやしたいことを示そうとする様子を感じ取ることは少ない。

条件のそろわない比較検討ながら、両誌に掲載される写真から読み取れる違いは大きく、今後さらに検討していくことの必要性を感じる。

4. 結果のまとめと考察

以上幼児を育てる家庭向け雑誌『あんふあん』について、2010 年秋から現在に至る期間の年中行事に関する記事を整理し、内容を確認してきた。

まず注目すべきことは、子育てに関する母親たちの関心事を中心にすえたこの雑誌の中で、年中行事が頻繁に取り上げられてきたことである。子育て中の母親たちにとって年中行事は、関心事の 1 つとなっているといえよう。また記事の掲載時期にはかたよりがみられ、10 月のハロウィーンから 2 月の節分にかけての記事が例年多かった。この時期のかたよりは、そのまま実際の祝いの状況の反映といえるのではないだろうか。博報堂が 2018 年に実施した家庭における年中行事に関する調査で、「クリスマス」「お正月」「節分」「バレンタインデー」がそれぞれ 8～9 割の高い実施率であるとして、秋から冬を家族みんなで楽しむ季節イベントシーズンとした結果とも合致している⁸。

年中行事を実施する場合は、行事を意識してアレンジした料理や手作り・工作を行うことが多いことがわかった。また年中行事の実施は、祖父母、友人と一緒にということもあるが、記事からは基本的に親子で行うことが読み取れる。料理をアレンジする理由について記事から読み取れることは、「伝統的」なものの否定ではなく、「伝統的」に行うための情報がないことも含めた「伝統的」に行う環境が整っていない状況で、現在実施する場合、自分たちで行事を解釈し直し、「年中行事を行う」とする中で許容できる形で内容を調整し実施しているといえる。これは、記事にも多く出てくる「楽しむ」ためにも必要なのかもしれない。『あんふあん』では、伝統的なやり方について詳細な記事を載せることもできるだろうが、そうしないのは読者がそこまでのものを求めていないと感じているからだろう。

ではなぜ多くの家庭で年中行事は関心をもたれ行われてきているのだろうか。

リビングくらし HOW 研究所による調査結果にはこのことを考えるヒントがある。本研究所では幼児のいる家庭を対象としたアンケートの中で、行事（主に年中行事）に関する設問を設けている。「行事のとき、あなたがこだわっていることを選んでください」（複数回答）という設問に対する回答で、「その季節や行事に合わせた料理やお菓子などを楽しむ」80.2%、

⁸ 前掲 4 と同調査。選択肢としては他に「イースター」「端午の節句」「半夏生」「七夕」「土用の丑の日」「お盆」「お彼岸」「春の七草」「鏡開き」「桃の節句」「ホワイトデー」がある。

「家族で一緒に時間を過ごす」80.0%とがほぼ並んで最も多く選ばれている⁹。「こだわっていること」は、つまり行事をするにあたって重視することと取れる。これでいくと行事を行う時に重視することは、季節や行事に「合わせた」ことを楽しむことであるとし、「きちんと」行うというよりも、行事を意識しながら無理のない形で取り組む様子がうかがえる。また、他の選択肢の「祖父母も一緒に楽しむ」「ママ友や複数の家族で一緒に楽しむ」が少ない様子から、「家族で一緒に時間を過ごす」という中の家族は親子を指していると考えられる。実施にあたってのこだわりを聞いたこの設問は、本稿の記事分析と同様の結果となっている。

また他の設問に「行事を家庭で楽しむことは、子どもの成長や教育のために大切だと思いますか？」というものがあり、回答として「とてもそう思う」73.1%、「まあまあそう思う」26.4%、「あまりそう思わない」0.5%となっている。現在年中行事を行うことの中に、家庭では「子どもの成長や教育のため」とした意義を見出しているとする結果となっている。就学前の幼児に対して、成長に関連した意味を見出すことは自然なことと思えるが、教育という言葉は一見不釣り合いにもみえる。しかし、「まあまあそう思う」も含めるとほとんどの人がこの問いに同意しており、驚かされる。

家庭で行なわれる年中行事の中に教育的意義を見出す背景には、1990年代半ば以降の教育に関する国の政策の影響を挙げることができる。都市化、核家族化、少子化などに伴い、「家庭の教育力が低下している」という認識がみられるようになる中、1997年に起こった神戸連続児童殺傷事件が社会に与えた影響は大きかった。事件を受けて、翌年に中央教育審議会から出された『『新しい時代を拓く心を育てるために』一次世代を育てる心を失う危機』と題する答申では、過保護や過干渉、育児不安の広がりやしつけへの自信喪失を「今日の家庭における教育の問題」とし、家庭で「一緒に食事をとる」「子供にも家事をさせる」など、それまでみられなかった具体的な提言がなされるようになった。

2006年には教育基本法が改正されたが、その際、第10条で子どもの教育にとって家庭が第一義的責任を有するものであり、子どもの生活習慣、自立心、心身の調和のとれた発達を図るべきであることが初めて明記された。教育社会学者の濱名陽子は、これまで家庭教育は私的な事柄として、ほとんど法的な規定がされてこなかった歴史的経緯から考えると、これは「きわめて大きな変化である」（濱名2010：82）としている。

また、第11条には「幼児期の教育」に関する条文が追加された。学校の種類を挙げる中で、まず筆頭に幼稚園があげられ、この変更により、幼稚園が学校教育の始まりであるという解釈にもつながるようになったという。こういった流れの中で、家庭教育や幼児期の教育への関心が高まっていったと考えられる。

ところで現在、関心が高まっている幼児期の教育に求められていることは何であろうか。

⁹ 前掲3と同調査の別項目。選択肢として他に「思い出を写真や動画に残す」「手作りの料理やお菓子、グッズを作る」「子どもに、その行事の由来や意味を教える」などがある。

本田由紀によれば、小学校入学後に学校で学び身につけていく学力のような習得可能で計測可能な能力以前に、幼少期からの日常的な生活力、人間関係を通して形成される、つまり家庭での親子関係を通じて身につける事柄、例えば日本の文脈でいえば「人間力」的な要素であるという。この流れで考えるならば、家庭において年中行事が広く行われていることの中に、親子のやりとりを通じて、文化や季節と触れ合いながら情操をはぐくむといった教育的役割が見出されているといえるのではないだろうか。

おわりに

本稿は「家庭における」年中行事というくくりでの論稿であり、現代の年中行事における一部分の把握にとどまるものである。

しかし、そうとはいえ、本稿における調査でもみえてきたように、現在家庭が年中行事を行う場として大きな部分を占めるということ、そしてその家庭における経験を通じて、年中行事が人々の中に認知されることが多いのであれば、これは現在の年中行事のあり様や動向を考える上で、小さいことではないだろう。

教育社会学の分野の研究を元にして検討するならば、現在家庭において親子で取り組む年中行事には、将来の人格形成につながるような教育的意義が見出されているといえよう。『あんふあん』読者の場合、社会生活を送る中で、また通っている幼稚園の取り組みなどから刺激を受けて、小学校に上がる前に、子どもの将来を考えて今から家庭でできることがあるのではないかと考える中での1つの選択肢といえる。

しかし、子どもの育ちに多くの責任が持たされるようになった現在の家庭は、その分日々の子育てに対して負担感も不安も多くなっている。『あんふあん』にみられる親子で行う年中行事はどこか自由に負担感がなく、その分実施してもしなくてもいいもの、という気楽ささえ感じるが、各家庭では気負って取り組むよりも、そういったとらえ方が年中行事の取り組み方として適当と思われているのかもしれない。

現在の年中行事にみられるこういった気楽さの中から、民俗学の文献で説明される日本人の生活リズムや靈魂観、世界観を見出すことは困難である。しかし、例えば現在家庭での年中行事が10月～2月、秋から冬にかけて集中して実施されることは、偶然とは思えない。この現象の中から、現在においても一年の終わりと始まりという大きな時間の節目を通じた、日本人の宗教性につながる感覚を見出すことはできないだろうか。人々の行動の元にある思いやとらえ方について把握するための方法を検討したいと思う。

家庭において実施されている年中行事の実態とそのもつ意義について、育児雑誌『あんふあん』からみてきたが、利用できる期間が思ったよりも短かったことから今後バックナンバーのさらなる収集の可能性を探ること、紙とは異なる媒体のあんふあん Web サイト、また別の雑誌との比較をすることなどを通じて同テーマについてさらに検討を進めていけたらと考えている。

参考文献

- 石井研士『都市の年中行事—変容する日本人の心性』春秋社、1994 年
- 石井研士『日本人の一年と一生 変わりゆく日本人の心性』（改訂新版）、春秋社、2020 年
- 村上陽子ほか「若者世代における人生儀礼および年中行事の現状と認知度と経験率」『静岡大学教育学部研究報告（教化教育学篇）』第 55 号、2023 年、p35～38
- サンケイリビング新聞社『あんふぁん園児とママのデータ：園児とママの情報誌』vol.14(2016)、vol.15(2017)、vol.16(2018)
- 北垣浩三『フリーペーパーの未来 業界実録・リクルート VS サンケイリビング』知玄舎、2014 年
- 稲垣太郎『フリーペーパーの衝撃』集英社新書、2008 年
- あんふぁんマガジン「媒体概要」（こどもりびんぐホームページ）、[こどもりびんぐ - 幼稚園配布のフリーマガジン「あんふぁん」 | こどもりびんぐ \(kodomoliving.co.jp\)](http://kodomoliving.co.jp)、2024 年 4 月時点
- サンケイリビング新聞 10 年のあゆみ編『白い紙への挑戦 サンケイリビング 10 年の軌跡 一編集者の記録』サンケイリビング新聞社、1982 年
- 濱名陽子「幼児教育の変化と幼児教育の社会学」『教育社会学研究』第 88 集、2011 年、pp87－102
- 濱名陽子「幼児教育と幼児教育の変化」『教育の社会学』新版、有斐閣アルマ、2010 年、pp68－119
- 志水宏吉ほか『シリーズ 学力格差②家庭編 学力を支える家族と子育て戦略—就学前後における大都市圏での追跡調査』明石書店、2019 年
- 小針誠『〈お受験〉の歴史学 選択される私立小学校 選抜される親と子』講談社選書メチエ、2015 年
- 本田由紀『「家庭教育」の隘路 子育てに強迫される母親たち』勁草書房、2008 年
- こそだて家族研究所「いまどきママの新常識調査 結果発表〈第 2 弾〉これからはイベント繁忙期！思い出づくりに励むいまどき家族」博報堂広報室プレスリリース、2018 年 12 月 14 日、[20181214.pdf\(hakuhodo.co.jp\)](http://20181214.pdf(hakuhodo.co.jp))
- 田口祐子「子どもに関する人生儀礼の意義と変遷—育児雑誌『赤ちゃん和妈妈』の記事分析から—」『論文集（令和 4 年度）』一般財団法人冠婚葬祭文化振興財団 冠婚葬祭総合研究所、2023 年、pp121－135